

月のことば (675)

最近、言葉の流動化が問題になっていきます。明治にも外来語が漢字訳され、ニューヨーク（紐育）、ローマ（羅馬）、パリ（巴里）、人名もシェークスピア（沙翁）と新しい日本語が生まれたが使用例はまれ。流行語として気持ち悪いを「きもい」と言い、「きれる」という言葉も「腹を立てる」という意味で使われるようになった。うるさい、面倒くさいの「うざい」という言葉は辞書にも載るといふ噂、流行というものは、しばらくのうちに変わっていく泡沫うたかたのようなものではありませんが、言葉一つで心にトゲを刺し、誤解を招く場合があります。より行き届いた表現から逆行していくのも考えもの。

親鸞聖人は、お経の言葉を大変大事にされ一言一句その意味を深く理解された方であります。聞く値打ちのある言葉を大切に。

世の中がどんなに変わろうと

真実の言葉は 変わらず

